早稲田大学校友会
佐倉稲門会会報

稲門佐倉

第37号



早稲田大学公認サークル　津軽三味線愛好会「三津巴」の迫力満点の演奏

会長挨拶・活動写真展



巻頭挨拶
会長　森山 泰充
（S48政経）



AIに水彩画風に
加工させたら
瞬時に仕上がりました

今年は昭和100年、前向きで明るい昭和レトロの時代を懐かしく思うのは私だけでしょうか。技術の進歩によりＳＮＳなどで多くの情報に接すると、それがうそであっても繰り返されることや加工映像によって信じてしまいがちです。いまこそリテラシーを高めることが大事です。自分が正しいとか美しいとか思う基準を育てる必要があると思います。いま早稲田大学も、正解が定まっていない未知の分野の解決策を自分で考えることを促す教育、そのために偏りなく学問の基礎を修めることにより論理的思考力や問題解決能力の向上を目指しており、とても期待しています。

さて役員会の推薦を経て6月8日の定期総会でご承認を得ましたので、引き続き佐倉稲門会の会長を務めさせて頂きます。三つの基本方針「①会員相互の親睦の深化②早稲田大学の発展に協力③地域社会の文化の向上に寄与」に基づいて、佐倉稲門会をより元気で、何より笑顔が弾む場にしたいと思います。
会員の皆さまからのご支援ご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い致します。

6年振り27回目の開催となった本年3月のふれあいコンサート「錦織健テノールリサイタル」は、地域に溶け込んだ行事として好評でした。佐倉市にも共催頂き、役員が一丸となって対応、そして会員の皆さまのご支援、佐倉三田会・近隣稲門会のご協力を得て無事に終了することができました。あらためて感謝申し上げます。来場者の多くが感動された様子に接して、開催して本当に良かったと思います。音楽を通して地域の方々との交流が深まり、文化振興の向上にも貢献できました。

本年5月には佐倉稲門会として初めて佐倉市福祉協議会を通じて「さくらあったか食堂ネットワーク」に10万円寄付しました。急増していま22箇所を数える「あったか食堂」は子供たちへの食事の提供を通じて、孤食の解消、食育の推進、地域交流の場所づくりを主な活動とされています。佐倉稲門会として地域を支える協力ができたことを誇りに思います。継続したいものです。

来年は佐倉稲門会創立40周年です。2026年3月「クミコ」コンサート、6月記念式典、記念誌発行などの準備を進めています。新しい仲間に入会のお誘いをするとともに、諸先輩が築かれた40年の歴史をしっかり引き継いで参ります。

様々な経験を有する幅広い世代の会員の皆さまが、腹を割ってのコミュニケーションができる集団としての佐倉稲門会の多彩な活動を、さらに活発化させて新しい歴史を刻むべく邁進致します。

活動写真展



①


②


⑤


③


④

①箱根駅伝応援
　可愛い応援団と合流しました
②野草を食べる会　野草採集
　本当に食べられるの？
③調理後の姿
　美味しそう？
④春の野球早慶戦観戦
　盛り上がりました
⑤同上反省会
　更に盛り上がりました

2025年度行事予定・さくらあったか食堂ネットワークへの寄付



幹事長
河野 俊昭
（S48法）

昨年度も多くの行事で会員の皆様が楽しむ姿を見ることができました。引続き今年度も会員の皆様に楽しんでいただける行事を数多く開催したいと考えております。

また、数多い同好会も活発に活動を計画していますので、ご興味のある行事や同好会活動にご参加いただき、当会活動をますます盛り上げていただきますようお願いいたします。

2026年３月にはクミコを招き「ふれあいコンサート」を開催する予定です。昨年度開催した錦織 健を招いてのコンサート同様、多くの皆様に喜んでいただくことができるようにしたいと思います。チケット購入等、皆さまのご協力をお願いいたします。

	行事予定	校友会･県支部活動予定
4月	13日 早慶レガッタ応援観戦（雨天中止） 26日 里山散策と野草を食べる会	千葉県支部幹事会 代議員会
6月	1日 野球早慶戦応援観戦 8日 定期総会	
7月		商議員会
9月		千葉県支部幹事会
10月	19日 稲門祭､ホームカミングデー 野球早慶戦応援観戦（または11月）	代議員会
11月	5~6日 ウォーキングの会･ハイキングクラブ 合同（八溝山一泊） 23日 ラグビー早慶戦応援観戦	30日 千葉県稲門祭
12月		商議員フォーラム
1月	3日 箱根駅伝応援観戦 新年会	
2月	佐倉稲門会･佐倉三田会合同講演会	
3月	15日 ふれあいコンサート 花見会	代議員会





地域への貢献

さくらあったか食堂ネットワークへの寄付



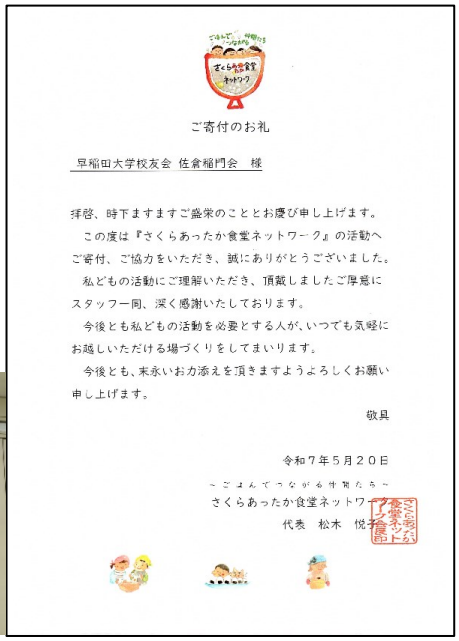
佐倉市内には22のこども食堂・地域食堂が活動しています。いずれもボランティアが中心の活動です。

このような市内の社会福祉活動を少しでも援助することを目的に、佐倉稲門会は「さくらあったか食堂ネットワーク」に10万円の寄付を行いました。このネットワークは、市内のこども食堂・地域食堂を繋ぎ「食を通じて、こどもたちが、こどもをよく見てくれる地域の大人たちと出会える場づくり」を目指しています。

寄付は市内で社会福祉活動を中心となって行っている「佐倉市社会福協議会」を通じて、善意銀行金銭指定預託制度を利用して実施しました。本年5月20日に森山会長より同ネットワーク松木悦子会長へ直接寄付金が手渡され、同ネットワーク、社会福祉協議会からは鄭重な礼状も頂きました。竹鼻 始(S47理エ)



寄付金贈呈式



ご寄付のお礼

早稲田大学校友会 佐倉稲門会 様

拝啓、時下ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。
この度は『さくらあったか食堂ネットワーク』の活動へご寄付、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。
私どもの活動にご理解いただき、頂戴しましたご厚意にスタッフ一同、深く感謝いたしております。
今後とも私どもの活動を必要とする人が、いつでも気軽にお越しいただける場づくりをしてまいります。
今後とも、末永いお力添えを頂きますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和７年５月２０日

～ごはんでつながる笑顔たち～
さくらあったか食堂ネットワーク
代表 松木 悦子

同ネットワークからの感謝状

1月 新年会


貝殻亭(勝田台)にて

2025年の新年会は、1月26日(日)12時より勝田台の「貝殻亭」で総勢39名の参加により開催されました。同店は本格仏蘭西料理店で、古いヨーロッパの建物をイメージさせる外観とアンティークな雰囲気の内装で、お客様を迎えてくれます。

森山会長の挨拶で開会の後、千葉市出身で「おしゃべりヴァイオリニスト」として浅草東洋館を中心に活躍されている「早川きょーじゅ」さんによる演芸が始まりました。「情熱大陸」などの楽曲演奏とともに、まるでヴァイオリンがおしゃべりしているようなパフォーマンスに、参加者からは笑いと拍手喝采の渦が湧き上がりました。

演芸の後は、年男の中森徹さん音頭で乾杯。仏蘭西料理とお酒(ワイン等)を楽しみながら、早稲田グッズの福引きで盛り上がりました。最後は楠原正人さんの音頭で校歌斉唱、参加者一同記念撮影して閉会となり、 2025年が皆さんの笑顔から始まった新年会でした。 福田 幸一(S57法)

3月 ふれあいコンサート復活


ふれあいコンサート終了後　錦織健さんを囲んで

1986年から毎年行われてきたふれあいコンサートが、コロナ禍で中止になってから6年が経ちましたが、本年3月15日に復活。第27回目になる今年は、テノール歌手の錦織健さんをお迎えして開催しました。

ふれあいコンサートは、地域の文化向上を目的として、地域の皆さまと共に音楽を楽しむ機会を提供するもので、今年も佐倉市との共催で行われました。

6年ぶりということでチケット販売に不安もありましたが、役員・元役員・会員および奥様方のご協力、また近隣稲門会や佐倉三田会のご支援もあり、チケットは完売できました。

錦織さんの4回目となるコンサートでしたが、その美声は観衆を魅了し、ご来場の皆さまから終演後に「素晴らしかった」「また聴きたい」、そしてアンケートにも「伸びやかな歌声にうっとり」「トークにも引き込まれた」という多数の声が寄せられ、主催者冥利に尽きました。

写真は、実行委員全員が、気さくで佐倉を愛する錦織さんとピアニストの多田聡子さんを囲んで撮影したものです。

次回は来年2026年3月15日、佐倉稲門会40周年記念事業の一環として、早稲田大学教育学部卒のシャンソン歌手クミコさんをお迎えして開催します。皆さま、ぜひお越しください。 茶野木 カ(S55法)



おしらせ

クミコさんは様々なメディアへの出演や全国のコンサート等多方面で活躍中

チケット予約受付開始：2025年10月1日
全席指定　S席 4,500円、A席 4,000円

6月　総会

2025年度第39回佐倉稲門会定期総会が、６月8日(日)にウィシュトンホテル・ユーカリで出席者62名で盛大に開催されました。

第一部の定期総会は、森山会長の挨拶、来賓代表の千葉県地域担当課長兼商学学術院会計研究科 担当課長三好裕明様のご挨拶のあと、2024年度活動報告・会計報告、2025年度活動計画案・会計予算案が承認されました。その後総会初参加の谷村章夫さん（S63文）が自己紹介をされました。

第二部は、佐倉中央病院院長兼医療法人理事長の岩淵康雄氏の講演です。演題は「早稲田を出て医者になるには ・ 医療についての雑談」で、早稲田を出た後に鹿児島大学医学部に進学されたユニークな経歴から現在の健康にまつわる話までとても楽しくお聞きしました。

第三部懇親会は、早稲田大学公認サークルの津軽三味線愛好会「三津巴」(みつどもえ）の演奏で幕を開けました。次にご来賓代表の高橋千葉県支部副支部長のご挨拶のあと、松平顧問の乾杯の音頭により開宴となり、和気あいあいと親睦が図られました。最後に諏訪副会長の閉会の挨拶のあと、「都の西北」を元気な声で熱唱し、静かな余韻を残しながら散会となりました。　早川 誠貴（H8政経）



2025年度定期総会終了後　来賓の皆様とともに

11月　2025年 千葉県稲門祭

Coming Soon!　参加者募集中！

○日時　2025年11月30日(日)
　　午後2時30分～7時35分
○場所　東京ベイ幕張ホール
　　(JR海浜幕張駅徒歩10分)
○方法　対面＋リモート
○会費　対面11,000円、リモート1,000円
○内容
第一部　講演会
（午後2時30分～3時30分）
　講演者：瀬古 利彦 氏
　演題：「心で走る」～マラソンの
　　スーパーエース瀬古さんに聞く～
第二部　総長懇談会
（午後3時40分～4時55分）
　田中 愛治 早稲田大学総長
第三部　懇親会
（午後5時10分～7時35分）


前回の様子





「老後の初心」―１００年時代

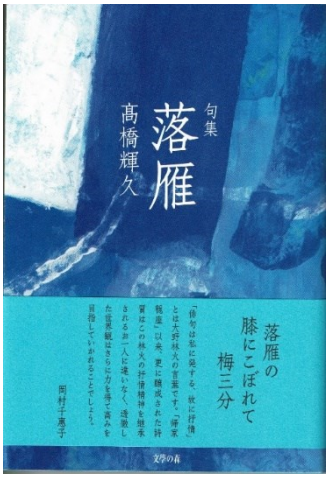
高橋 輝久（S39法）

未来のことはわからない、今をどう生きるかが大事なことである。いつも前向きにポジテイブに生きていきたいと思う。人生の蝋燭の火は揺らぐことはあってもまだ点っている。いつまで点っているのかは分からない。私、昔から３年計画で何かを成そうとやってきた。とは言ってもそんなに大げさなことばかりではない。そんなことの一つ、ささやかな案件であるが、さきほど句集「落雁」を上梓することができた。ポッチンポッチン雨垂れポッチン、長年の句作りがこのような句集に辿り着いたということである。ここでハタと思ったのはまだやりたいこと、やるべきこと、計画倒れのことなどが沢山あるということである。それらがなにかはここでは言わない、でもこれをやり遂げるには５年や１０年ではやれないなと思う。それまで蝋燭の火は点っていてくれるか、甚だ心もとないことではあるけれど、そんな風に考えると人生１００年時代ということにより沿うのかなとふと気づく。１００年とは誠に畏れ多いことながら、常に前向きに考えて前に進むとすれば、自然と近づいて来るのかも知れないと思う。

老いに疲れてはいけないかなと思う。能楽の大成者、世阿弥はその著作「花鏡」で「老後の初心忘るべからず」という。これは次のように続く。「是非の初心忘るべからず。時々の初心忘るべからず。老後の初心忘るべからず。」ちょっと小難しいかもしれないが、編集氏から「老後の初心について書いてほしい」という依頼なので書くことにする。是非の初心とは成功と失敗を繰り返した若いころの熱意やそのときの自分のレベルを忘れないこと。時々の初心とは人生の節目において初心を持つことを忘れないこと。そして、「老後の初心忘るべからず」とは自分の未熟な時、拙い時のことを忘れてはならないということ。齢をとったからと諦めたり、逆に慢心したりするのではなく、いくつになっても初めて遭遇する局面があるのだから、それに対して新たな気持で向き合わねばならない。また、齢を重ねて腕を上げ、周りから誉めそやされるようになっても油断せず、さらに自分を磨き続けなければならないというほどの意味である。過去の成功体験を脱ぎ捨て、新たな心で挑戦し、取り組んでいくことを良しとする。因みに「初心」の初というのは衣偏と刀であり、真っ新なる生地にはじめて刀を入れることを示し、古い自分を断ち切り新たな自己として生まれ変わる心というほどの意味となる。老後の初心忘れずに人生歩もうということである。

私、肝心の仕事はしっかりとそれなりに楽しくやり遂げたとして、スパッと切り替えて人生二毛作を試みた。能楽と俳句である。能楽は結構力を入れたので、一応能楽師師範となり、それなりの活動もしてきた。能楽は実に素晴らしい芸能であると思う。俳句は結社に参加し、俳人協会会員として続けてきた。それでこれらを稲門会の同好会活動に生かしていこうと思い立ち、俳句同好会、能楽同好会として進めてきた。これらは、フレイル予防にも良いようである。和気藹々、たのしい交流の場にしたいと思う。明るく愉快なひとたちと元気に愉しく過ごすことが、なによりの良薬である。

そんな処に人生１００年時代が見えてくるのかもしれない。



句集 落雁



子どもの読書活動の推進について

古谷野 久美子（H4一文）

皆さんは、4月23日が「子ども読書の日」と定められていることをご存じでしょうか。この日はユネスコが「世界・本と著作権の日」と宣言した日であり、シェイクスピアやセルバンテスの命日に由来しているそうです。また、4月23日から5月12日までは「子どもの読書週間」とされ、全国各地で子どもたちに読書の魅力を伝えるための様々な催しが行われています。

私が昨年度まで在籍していた千葉県教育委員会でも、子どもの読書活動を推進する取組をしています。図書館での絵本の読み聞かせや「子ども読書の集い」などを通じて、子どもたちが本の楽しさを感じられるよう工夫しています。例えば、参加者同士が好きな本を紹介し合うビブリオバトルや、絵本専門士を招いての講演会など多彩な催しが行われています。

今回、ご紹介したいのが「子どもに読んでほしい本100選」というリーフレットです。このリーフレットには、乳幼児向けと小学生向けの2種類があり、それぞれ図書館司書が選んだおすすめの本が100冊ずつ紹介されています。この企画は約15年前に始まり、キャッチフレーズやレイアウトなど細部にわたる議論を経て作成されました。当時、私はこのリーフレットの直接の担当ではありませんでしたが、作成の様子を見聞きしていたので、完成した時はとても嬉しかったことを覚えています。このリーフレットは、その後も掲載本のアップデートを続けながら、現在も毎年配布されています。千葉県教育委員会のホームページからダウンロード可能ですので、ぜひご覧ください。また、身近に保育園・幼稚園に通うお子さんや小学生がいる場合、このリーフレットを活用していただければと思います。

（URLはこちら。https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/leaflet.html）

ここで、リーフレットの掲載本の中から、私自身が子どもの頃に好きだった絵本「ものぐさトミー」（ペーン・デュボア作、松岡享子訳、1977年、岩波書店）をご紹介します。この物語の主人公はトミー・ナマケンボという男の子で、彼の家は全てが電気仕掛けとなっており、朝起きることからお風呂、ご飯、歯磨き、着替えまで、機械が自動でやってくれるという夢のような生活を送っています。しかし、ある日嵐が来て停電となり、便利な生活が一変してしまうというストーリーです。「怠けてばかりはいけません」という教訓が込められているのかもしれませんが、子どもの頃の私はこの自動化された家に憧れ、単に楽しい物語として何度も読み返しました。このような「物語を楽しむ」経験が自分の基盤を育てたと思っていますし、子どもたちに物語の楽しさを味わってほしいという願いにつながっています。

この絵本に登場する全自動のお風呂は、1970年の大阪万博で展示された「人間洗濯機」を思い起こさせます。そして、現在開催中の大阪万博ではさらに進化した「ミライ人間洗濯機」が展示されているそうです。物語の中に描かれた世界が現実になる日も近いのかもしれませんね。



子どもに読んでほしい本100選（千葉県教育委員会）

同好会活動紹介（ハイキングクラブ、囲碁同好会）



ハイキングクラブ

代表者：楠原 正人　連絡先：m_kusuhara@ac.cyberhome.ne.jp

当クラブは、2008年発足、2025年4月の房総のむら～龍角寺ハイキングまで実施回数40回を数えています。

当初は登山、１泊温泉付きもありましたが、会員の高齢化とともに最近は平地、近場の日帰りが多くなってきました。

会員は、現在25名前後、夫婦での参加もみられることが当クラブの特徴の一つです。

現在の活動状況は年２回（春、秋）、参加者数15名前後、昼食は、レストランでの飲食、若しくは持参の弁当を現地で食べることもあります。

今後は、稲門会の公式行事である「ウォーキングの会」との合同開催の形も交えながら、軽い登山や、マイクロバス利用などで足を延ばして、1泊温泉付ハイキング旅行復活も視野に入れながら活動していきます。

年齢を経てくると、人との共同行動による共感、会話の重要性を痛感するようになってきます。健康増進、自然とのふれあい、人との交流、会話を通してハイキングクラブを盛り上げていこうと考えています。



2024.11　印旛沼ハイキングを終えて



2019.10　志賀高原ハイキング



囲碁同好会

代表者：井澤 克彦　連絡先：ky-izawa0511@catv296.ne.jp



2025.4　佐倉稲門会囲碁大会



2025.5　四街道・佐倉稲門会囲碁交流戦

佐倉稲門会囲碁同好会は2005年9月に稲門会千葉県支部囲碁会の創設に併せて、囲碁を楽しむ佐倉稲門会の6名により発足しました。

6段の高段者から初心者まで幅広い会員が集い種々の囲碁大会を開催・参加しています。

同好会の定例会として「佐倉稲門会囲碁大会」を志津公民館で年5回、対外試合として「首都圏オール早稲田囲碁祭」「稲門会千葉県支部囲碁大会」「佐倉早慶親善囲碁大会」「四街道・佐倉稲門会交流対局」(年2回)の合計年5回を行っています。

最盛期には16人の会員が集いましたが、現在(2025年)は8人となっています。囲碁は脳の活性化にもつながります、是非この機会に「囲碁同好会」にご参加ください、経験者はもちろん初心者等の方も大歓迎です。

なお初心者等には囲碁大会だけではなく、練習の場として「囲碁研修会」も志津コミュニティーセンターで行っています。

同好会活動紹介（ゴルフ同好会、とうもん・さくら俳句会）



ゴルフ同好会

代表者：岩崎 健一　連絡先：Kmttr6241@i.softbank.jp

ゴルフ同好会の活動は、春秋の「佐倉稲門会ゴルフ」、春の「千葉県下稲門会親善ゴルフ」、春秋の「北総地区（白井、八千代、印西、成田、鎌ヶ谷、佐倉）稲門会親善ゴルフ」、秋の「早慶親睦ゴルフ」と併せて、年6回行なっております。

「佐倉稲門会ゴルフ」は、地元佐倉カントリー倶楽部で、最低限のルールで行なっており、スコアより親睦第一で、ゴルフ賞品も多くの人に行き渡るよう行なっております。

コンペの後には反省会と称して会食をおこなっておりますが、アルコールとカラオケに熱中し、「反省」はどこへやら、こちらがメインの方も多く、メンバーは実に多士済々です。

現役中にゴルフをやっていて、しばらく中断されていた方も、健康維持の観点から、スコアに関係なく参加できる佐倉稲門会ゴルフ同好会から再開されたらいかがでしょうか。是非、多くの皆様のご参加をお待ちしております。



グリーン上　暑さとの闘い？



佐倉稲門会ゴルフ　佐倉カントリー倶楽部にて



とうもん・さくら俳句会

代表者：高橋 輝久　連絡先：wa27534@bg7.so-net.ne.jp



定例句会後のなごやかなひととき

俳句は17音の短い詩です。５・７・５の定型にはめ込み、それに季語を入れればそれで良しです。季語は一句一季語、一句に一つ使います。季語は季節によって様々に変化して使い分けられます。感じたこと、思ったことをすっと素直に表現すればよいのです。

現在、会員は17名、内女性は４名おります。毎月一回、第三土曜日に「句会」を開催しております。

あらかじめ、当月の７日までに各自３句提出、そのうち一句は「兼題句」とします。それをまとめて一覧にします。句会当日は、この一覧をもとに各自六句選句・発表し、集計することになります。高得点句から順に発表・講評などで楽しいひと時を過ごします。

また、年に一回程度、吟行に行きます。最近では「向島百花園」、「真間の手児奈」に吟行しました。ともかく皆さん元気です。

投句は、さっと出す「ひらめき型」ゆっくりの「じっくり型」期限間近の「ぎりぎり型」とあって面白いです。フレール予防にも良いようです。ご参加、歓迎します。

同好会活動紹介（麻雀同好会、カラオケ同好会）



麻雀同好会

代表者：古場田 憲和　連絡先：n-kobata@catv296.ne.jp





麻雀は頭脳的なゲームで脳の活性化に有効、指先を絶えず使うので刺激的です。また4人で卓を囲むのでコミュニケーションを保ちながらプレーできます。
シニア世代にとって認知症予防に効果的といわれる所以です。

さて佐倉稲門会有志が2012年に千葉県稲門麻雀交流会へ参加しました。これを端緒に2015年に麻雀同好会を設立して、“賭けない・飲まない・吸わない”「健康麻雀」を年に4回開催するようになり、現在の会員数は18名です。2025年の活動は、次の通りです。

佐倉稲門会麻雀同好会の定例会：3月、6月、9月、12月の第2月曜日に勝田台で開催。女流雀士を含めて賑やかに3卓を囲んでおります。

千葉県稲門麻雀交流会：3月と9月の第1日曜日に千葉中央駅近くで県下の11稲門会が参加。2025年3月2日には64名が、団体戦・個人戦で競い合いました。佐倉からは4名が参加しました。

皆さまのご参加をお待ちしております。



カラオケ同好会

代表者：森山 泰充　連絡先：yas.moriyama@splash.dti.ne.jp

カラオケ同好会幹事の退任、その後コロナ禍が続いて長く休眠状態でした。カラオケ愛好の皆さまからの期待に応えて2025年6月再開しました。

思い出の歌、こころに響いた歌、いつも口ずさむ歌・・・皆さんが胸に刻んだ歌を大きな声で唄うことは健康の特効薬です。歌声を通じて大いに親睦交流を深めたいと思います。

宴席でのカラオケ会とは異なって、心置きなくゆったり唄うことが出来ます。

会場は昭和の雰囲気を満喫出来るサロン「シルク」、ゆったりとした座席での会話もお楽しみください。

毎月第3木曜日、14:00～17:00開催を予定しています。ご参加の連絡をお待ちしております。



2025.6 再開第一回カラオケ同好会「シルク」にて


AIの描く絵で一層ステキなシニアたちに

同好会活動紹介（ユニークな同好会）

同好会の中には、コロナ禍他諸事情により活動し難い状況が続いているものもありますが、いずれも佐倉稲門会ならではのユニークな活動であり、再度活動を活発化できれば、と考えています。
これら同好会の今後の進め方について幹事にお聞きしました。（会長　森山 泰充）

寄席を楽しむ会



2019年6月に第一回を開催した同好会です。国立演芸場（永田町）で一般の演芸場の半額位の料金で落語、漫才、奇術、曲芸等を3時間位鑑賞していましたが、残念ながら、2023年10月から国立演芸場が整備のため閉館中です。
現在は深川江戸資料館（清澄白川駅下車）などで多く開催している様ですので、こちらの利用を含め検討しています。現在のチケット代は、一般2,300円、シルバー（65歳以上）1,800円と格安で寄席を楽しむことができます。再開の折には是非皆さんご参加下さい。

(S47理工 竹鼻 始)

懇話会



「懇話会」の前身「好きなことを話す会」は2019年に発足しました。2021年には「日本の学び舎を訪ねる」「明治時代の写真黎明期」の報告がありました。
2022年には「学びという病と良き師との出会い」、「ＮＨＫの大河ドラマの思い出を語る」、「ボランティア活動について語る」、「お金の話をしよう」の四回をオンラインで行い、いずれの会も12人、13人の参加者がありました。しかしその後コロナ禍の影響が長引く中、2023年以降開催していません。
今後、より多くの参加者を得て対面方式で再開したいと思っています。

(S38法 村田 修造)

お能を楽しむ会



能は室町時代に観阿弥、世阿弥親子が完成させた、今に至る６５０年も続く伝統芸能。六ｍ四方の簡素な舞台空間で、語り（謡曲）、舞、囃子（楽器演奏）の三つで構成され、イマジネーションの世界をつくる。それらが融合した処にじみでてくる面白さが格別な魅力である。
能は平家物語、源氏物語、伊勢物語などの古典に由来するものが多く、その物語展開には豪華、絢爛、華麗、勇壮、抒情、悲哀等、格調高く素晴らしいものがある。代表的な能「俊寛」「景清」「安宅・勧進帳」「鉢木」「道成寺」「砧」「隅田川」「熊野」「松風」「葵上」「弱法師」「定家」「羽衣」「屋島」「鞍馬天狗」「船弁慶」等々練りに練った芸能を一度は見ておくべきと思う。また、謡曲と仕舞はそれぞれ修練して楽しむことができる。
この会の趣旨は、この伝統芸能とはなにか、どう親しむかにある。今後、年に何回か能楽堂での能・狂言の鑑賞会を計画して行きたい。

(S39法 高橋 輝久)

役員

役職	氏名（卒年）		
会長	森山 泰充（S48政経）		
副会長	諏訪 吉春（S49商）	中村 勇（S60社学）	
幹事長	河野 俊昭（S48法）		
副幹事長・会計幹事	脇谷 義朗（S57商）		
副幹事長	稲葉 隆（S51政経） 早川 誠貴（H8政経）	茶野木 力（S55法）	福田 幸一（S57法）
監事	井澤 克彦（S42理工）	松川 泰三（S50政経）	
幹事	村田 修造（S38法） 中村 昭夫（S41政経） 岩崎 健一（S44商） 坂田 孟夫（S45法） 稲垣 寛孝（S51法） 野村 知哉（S61理工）	和田 勇（S38商） 平野 萬司（S41政経） 河西 郁男（S44教） 楠原 正人（S49社学） 中森 徹（S53理工院） 千田 武弘（H7商）	宮武 忠博（S40法） 水野 昴（S43理工） 古場田 憲和（S45商） 門脇 尚樹（S50政経） 竹中 靖博（S54法） 小林 慎一朗（H27スポ科院）
顧問	花川 宏（S29理工） 澤谷 英男（S43商）	高橋 輝久（S39法） 竹鼻 始（S47理工）	松平 武史（S43商）

編集後記

これを書いている今、NHKの朝ドラ「あんぱん」は地方新聞社の雑誌編集部を舞台にしている。たまたま「稲門佐倉」の編集作業中なのでちょっぴり身近に感ずる。もちろんドラマのように格好良い登場人物はいない。

その朝ドラで描かれている主題のひとつが、戦争を経た「正義の逆転」だ。今年は戦後80年だが、その間曲りなりにもあった道理が通用せず、乱暴な不条理が通る世界になってきたように思える。「正義の逆転」が再び起こる前触れか、あるいはもう起こっているのか。簡単には元に戻りそうもない。

同じNHKの大河ドラマ「べらぼう」も出版業界を描いている。江戸時代から戦後に至るまで本は長らく娯楽の主役だったが、今は劣勢のようだ。スマホ経由で色んなメディアが溢れ、コスパ、タイパが優先されると、本を買って（借りて）読むという手間も敬遠されがちなのかもしれない。人の思考まで短絡的にならなければ良いが・・・

さて「稲門佐倉」第37号は、佐倉稲門会の現会員のみならず、会員になられていない校友の皆様にも手に取って頂くことを目的に編集したものである。多くの校友の方が本冊子によって佐倉稲門会を身近に感じて頂けたならば幸いである。

冊子の製作は、小さいものでも、多くの人のエネルギーが必要な作業である。本冊子の製作にあたり、新米編集者の不手際にも関わらず、それぞれにエネルギーを注いで頂いた皆様ーご寄稿者、各記事執筆者をはじめ、会長、幹事長、編集委員の皆様ーに心から感謝したい。

稲葉　隆（S51政経）

発　行　人：森山 泰充
編集委員会：稲葉 隆、茶野木 力、脇谷 義朗、福田 幸一、早川 誠貴
ホームページ：http://sakura-tomon.net/
HP